

真心と澄み切りの心で、 神様の前に臨む

古神道修道士
矢加部幸彦 [お話・写真提供]

古神道修道士として、神ながらの道を
広く伝えている矢加部幸彦氏。

ここでは、神社にお参りする際の心構えと、
お参りするとは何かを教えてください。



矢加部幸彦 Yakabe Yukihiro

古神道修道士。神道音楽家。大和ことほぎの会主宰京都在住。古神道の師とご神縁をたまわり、神武一道を修行研鑽。古神道ワークショップや言霊修道士養成講座などを通して、古の叡智を伝える。さまざまなアーティストとのコラボレーションや、各地神社での奉納演奏など、神道音楽家としても活動。平成24年7月には、日本・アルメニア外交関係樹立20周年記念事業に招かれ、国立ロシア美術館やアララト山(アルメニアより)にてご奉納演奏をする。大和ことほぎの会公式サイト

<http://kamuhogi.com/yamatokotohogi/>

ご神気とは、 微細で清らかなる振動のこと

ご神気は、神域や神社で感じることが多いのですが、もともとは古代人が純粹な感性で見つけた、清明なる場に顕れている、清らかな微細な振動、いわゆる千早振る、ふるえのこと。

もともとそこにお社はありませんでしたが、その清らかな場所を象徴する大きな岩や木をシンボルとして、日々変わらざるもたらされる恵みや、生かされていることへの感謝におそれかお祈り、祈りを捧げてきたのがお祭りの始まりです。やがて、お祭りの時にお社を建て、終わったら崩すということが繰り返されるようになっていきましたが、それが次第に固定化し、いまの神社の形になっていったようです。神社では、お願いをしてもいいのですが、同時に感謝も必要です。この世界は、波長同調の世界です。いわゆる人間のエゴと感応して、神様への祈りのつもりが、幽界・霊界レベルものと通じてしまうことがあります。中には願いをかなえてくれる存

在もいますが、人間をたぶらかしもあります。「神は人の心の鏡のごとし」と言いますから、人の心に見合ったものが感応してくるということですね。

また、神域にはずかずか踏み込まず、それ相応の心がけて、許可をいただいて入るのが礼儀です。昨今のパワースポットブームでは、礼儀もなく入り込む人たちが場を荒らし、エゴのエネルギーを落として行きます。

お参りをする時は、神様に「入らせていただきます。よろしいでしょうか」と伺い、身を正し、禊と祓いをし、無駄口をたたかず、入らせていただく。祭りというのは、人の真心と神の真心が釣り合うから祭り(真釣り)なんです。軽口叩きながら、許可もなく入るのは、真心がない証拠。それでは、神の心とは響きあいません。また、神はすべてお見通しなので、ある意味お願いをする必要もないんです。真心と澄み切りの心、そして感謝をもって臨むだけでいいんです。

心を澄ますための簡単な方法として、鎮魂呼吸があります。鎮魂呼吸は、鼻から静かに息を吸い、鼻から静かにゆっくり吐いて、細く長く、吸う息と吐く息の境目がないように、まるで呼吸にすする呼吸法です。これで荒い振動が千早振る状態に近づくと、これをやって神様の前で心を鎮めるといいですね。

最もご神気の素晴らしきところは、と尋ねられれば、それは、皇居の賢所です。ここは、天照大神さまのご神体をお祀りしているところで、神界と人界をつなぐゲートなのかもしれませんね。賢所は誰でも入れるところではありませんが、当然、皇居の周りのエネルギーはかなり高いです。かつては、京都御所にてその祭祀が行われていたわけですから、いまの京都御所のご神気も、素晴らしいものがあります。

ワークショップ情報

今後の全国でのワークショップ情報は、こちらをご覧ください。

*大和ことほぎの会 公式サイトスケジュール欄
http://kamuhogi.com/yamatokotohogi/?page_id=13

また、下記のプログやフェイスブックにも、随時スケジュールをアップしています。

*ブログ「ことほぎの光」
<http://hakucho.blog58.fc2.com/>

*フェイスブック
<https://www.facebook.com/yukihiko.yakabe>